

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(特別支援学校東紀州くろしお学園おわせ分校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		児童生徒一人ひとりの可能性を引き出し、元気いっぱい、笑顔いっぱい、光いっぱいの『くろしお学園』をつくる。
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	①地域の関係機関・団体と協働して学習を進めている。 ②地域の小・中・高校等との交流を盛んに行っている。 ③自らの持てる可能性を伸ばそうと努力している。 ④学校における学習活動等に積極的に取り組み、経験・体験を積み重ねている。
	ありたい教職員の姿	①特別支援学校に勤務する教職員として、児童・生徒の障がいに基づいた誠実な支援により児童・生徒及び保護者関係者からの信頼に応えられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に臨んでいる。 ②地域の企業・関係機関・団体と協働し、児童・生徒の卒業後の進路保障に積極的に取り組んでいる。 ③地域の小・中・高校等との交流が円滑に進むよう積極的に取り組んでいる。特別支援教育のセンター的役割を果たすため、地域の学校へ専門的なアドバイスを行うとともに、自己研鑽を重ね専門性を高めている。 ④教育環境をソフト・ハード面で整備し、児童・生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう積極的に取り組んでいる。 ⑤ワークライフバランスを意識し、働き方の見直しと時間外勤務の削減に取り組んでいる。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	①<児童生徒> 健康で楽しく安全に学び、社会で役立つ知識や技能を習得できる学校であり、卒業後の進路が期待されている。 ②<保護者> 楽しい学校生活を送り、卒業後の進路決定についての関心が高い。 ③<地域の学校> 特別支援教育の専門的知識や技能の提供と教育相談の充実。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	①<保護者> ・安全・安心な学校生活と進路の決定 ②<地域の福祉関係機関> ・地域行事への学校、児童生徒の積極的な参加と情報の提供 ③<地域の学校> ・特別支援教育の専門性の提供及び巡回相談等の充実	①<保護者> ・教育活動への理解と協力及び参画 ②<地域の福祉関係機関> ・在学中から卒業後も切れ目のない支援体制 ③<地域の学校> ・本校への理解と協力 ・交流活動の充実

(3)前年度の学校関係者評価など		<p>○地域へ情報発信を継続しながら、子どもの就学や支援についてセンター的機能を高めていけるとよい。また、高校段階の支援として、地域の高等学校との連携が大切。</p> <p>○さまざまな課題を有する子どもたちへの支援の在り方として、スクールカウンセラー等、外部人材を活用しながら、本人や保護者の意向を最大限尊重した取り組みを進めることが望ましい。</p> <p>○防災教育では、自然災害を想定した訓練が定期的実施されている。訓練内容に体験的な活動も充実できるとよい。また、消費者教育など新たな課題対応することも必要。</p> <p>○高等部卒業後の進路については、長期的な視点から関係機関と連携した取り組みを継続的に行い、保護者や学校のニーズを伝えていくことが大切。</p>
(4)現状と課題	教育活動	<p>○新型コロナウイルス感染症対策の変化に伴い、本人や保護者のニーズに応じて学校間交流等、地域との交流を進めていきたい。</p> <p>○適切な学習内容を計画的に配置し、児童生徒の実態や課題に応じた指導の充実のため研修を深める。</p> <p>○進路情報や学校の様子など様々な機会を通じて容易に情報発信できる仕組みを整え、学校が保護者や地域の関係機関と良好な関係性を相互に築けるよう働きかける。</p>
	学校運営等	<p>○児童生徒や保護者が相談できる機会を充実させるとともに、外部講師を活用した学習機会の充実を図り、児童生徒の教育的諸課題の早期発見と早期対応につなげていく。</p> <p>○さまざまな研修機会を通じて、学校に新たに導入された情報機器や校務支援システムなどの活用に向け、教員のスキルアップにつながる取り組みを進める。</p> <p>○地域の幼稚園や保育園、小中学校に向けて、高等部卒業後の進路希望に応じて必要とされる力や障がい特性についての理解などが深まっていくように働きかけを進め、高等学校との連携の在り方を検討する。</p>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>①&lt;個々のニーズに応じた授業の実施&gt; 個々の特質を把握し、そのニーズを十分踏まえて「個別の教育支援計画」等を策定する。これらに基づき教育課程や学習計画を作成し、児童生徒の自立に向け、多様な生活学習の場を提供する。</p> <p>②&lt;進路支援の充実に向けた取組&gt; 「個別の移行支援計画」を策定し、地域、関係諸機関との連携を図りながら児童生徒の支援を継承する体制を確立するとともに、卒業後の進路選択肢の拡大に向けた取組と情報提供を行う。</p>
学校運営等	<p>①&lt;専門性向上の取組&gt; 教職員一人ひとりが、特別支援教育に関する幅広い知識を持つとともに、1つ以上の分野(特質・疾病等)について、専門的な知識・技術を持ち、地域からの相談に応じられるようにする。また、センター的役割を果たすため、教材や図書室等資料を整備し、地域等への貸出しを行う。</p> <p>②&lt;地域ネットワークの拡大&gt; 地域の保・幼・小・中・高各学校、園や福祉関係施設、行政機関等との連携を強め、個人情報に配慮して情報共有を図る。また、紀南地域でセンター的機能を果たす本校との連携も深める。</p> <p>③&lt;児童生徒の安全・安心かつ充実した学習環境の整備&gt; 児童生徒が安全に学校生活を送ることができる環境を整備する。</p> <p>④&lt;情報提供による信頼の構築&gt; 保護者や地域の「信頼」を確保し続けるために、さまざまな広報媒体を効果的に組み合わせた情報発信を行う。</p>

⑤<職場環境の整備>

教職員が、意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、目標・目的を共有する。

話し合いの場を設定し、業務内容の見直しや過重労働の削減などに取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
個々のニーズに応じた授業の実施	<p>【小学部】</p> <p>体力の維持・向上と健康管理</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベーシックタイムに参加して、体力の維持・向上を図る。</li> <li>・食環境を整備して、肥満度(指数)を維持する。</li> <li>・家庭や医療機関と連携し、児童の体調把握に努める。</li> </ul> <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベーシックタイムの参加率90%以上</li> <li>・肥満度(指数)の現状維持</li> <li>・対象児童の療育相談やリハビリに2回以上参加する。</li> </ul>	<p>【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベーシックタイムや体育では歩く・走る・跳ぶなどの基本の運動をおこない体力の維持向上に努めた。</li> </ul> <p>[参加率:99%(不参加6回 611/617)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肥満度(児童平均)は 1.8 減少した。</li> <li>[26.7(軽度肥満)→24.9(軽度肥満)]</li> <li>・療育相談、リハビリの参加回数:4回</li> </ul>	◎
	<p>【中学部】</p> <p>個々のニーズに応じた授業の実施</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベーシックタイムで生徒個々の周回数を毎回記録し、その増減を目安として、生徒各自が周回数の増加を目標とする。</li> </ul> <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒各自の周回数(走行距離)が、前期に比べて後期のほうが1割以上向上することを目指す。</li> </ul>	<p>【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期に比べ後期は運動しやすい気候になり、2月のマラソン大会という目標もあったため、生徒によってはモチベーションが上がり、体力も向上した。</li> <li>しかし、前期に頑張りすぎて後期は記録が伸び悩んだ生徒もいた。</li> <li>・周回数の平均は後期の方が1割以上アップした。(ベーシックタイム参加者9人中6人)</li> </ul>	◎
	<p>【高等部】</p> <p>進路学習や現場実習において、生徒の実態に応じた目標を設定し、振り返りをする</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場実習では事前の目標設定、事後の振り返りの掲示物作成や、お礼状作成に、学級ごとに取り組む。</li> </ul>	<p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の課題や目標を共有することで、日々の学習支援に役立てることができた。</li> <li>・前期の現場実習を経て 3</li> </ul>	◎

<p><b>進路支援の充実に向けた取組</b></p>	<p>・進路に関する現状と課題についての情報を共有し、高等部としての共通理解のもと、個々の進路指導にあたる。          ・個々の生徒の進路にかかわる目標について情報共有する。</p> <p>○成果指標          ・現場実習(年2回)終了後に各学級の取り組みを共有する。</p> <p>・学期に1回、進路担当からの情報提供の機会を設ける。</p> <p><b>【教務・研修部】</b>          カリキュラムマネジメントの充実を図る</p> <p>○活動指標          ・カリキュラムマネジメントを進めるにあたり、学校や地域の実態や特色を考え、各教科の目標や指導内容の整理を行い授業に取り組む。</p> <p>○成果指標          ・年度末にアンケートを行い、目標や指導内容の整理を行い授業に取り組めたかどうか確認する。</p> <p><b>【総務部】</b>          進路支援活動をPTA中心として行ない、地域の進路先確保を目指すための、保護者の活動を広げる</p> <p>○活動指標          ・進路支援に係る懇談会や学習会を開催し、保護者へ進路支援の情報や活動の場を提供する。</p>	<p>年生2人が進路希望先を決めることができた。          ・後期の現場実習では、1年生が初めての実習を行った。          (延べ12か所で実施)          ・3年生全員が進路先を決めることができた。</p> <p>・学部ににて、情報共有を行った。(12回以上)          ・現場実習を経て、各生徒の目標を見直し、共通理解を図った。(2回)          ・卒業生の様子や、事業所の空き状況について情報共有を行った。</p> <p><b>【教務・研修部】</b></p> <p>・指導計画作成、指導案の研修や授業実践などを通して育成すべき資質・能力の3つの柱である「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」について、授業計画を考える機会をもつようにした。          ・個別の指導計画の作成の時期に、学習指導要領の学習内容を簡潔に示したものを教員に周知し、学習指導要領や育成すべき資質・能力を意識できるようにした。</p> <p>・年度末に教員アンケートを実施し、「できた」「おおむねできた」という回答が27人中17人(63%)であった。</p> <p><b>【総務部】</b></p> <p>・11/9(土)に進路支援部と共催しPTA学習会を実施した。          ・PTA学習会は、「卒業後の生活について」をテーマに卒業生の親御様3名を講師に招いた。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>
-----------------------------	---	---	-------------------

	<p>○成果指標 ・進路部と協働し、市町への要望書の作成・提出をする。</p> <p>【進路・教育支援部】 よりよい進路選択に向け、早期から進路に関する意識を向上し、在学中から卒業後の生活について見通しを持って準備を進められるよう、全学部の教員・保護者への情報提供を行う</p> <p>○活動指標 ・各学部の教員および保護者に向けて、高等部の進路支援や卒業後の生活に関する情報を提供する機会を増やす。</p> <p>○成果指標 ・PTAと連携して卒業後の生活を具体的にイメージできるような研修や活動を行うとともに、地域の福祉事業所の現状について理解を深め、話し合える機会を作る。 ・教職員に対し、卒業後の生活に必要な力や福祉事業所の様子について知ってもらえるような校内研修を行う。</p>	<p>(保護者11名参加)</p> <p>・卒業後も地域で活動できるように、保護者アンケートを行い、集計した内容を要望書にまとめ、進路部と共に市町へ提出した。</p> <p>【進路・教育支援部】 ・PTA 学習会を通して、在学中と卒業後の生活や福祉サービスの違いなどについて話を聞くことができた。 ・地域の福祉事業所の現状や、市町への要望書についても理解や協力を求めることができた。 ・教職員に対して、5月に地域の現状や高等部卒業後に必要な力など、進路に関する校内研修を行った。また、7～8月に、事業所見学研修を行い、2日間で16名の教員が参加した。</p>	
--	--	---	--

改善課題

<p>【小学部】 ・ベーシックタイム、体育などの活動に参加でき、肥満度の平均は減少しているが、個別にみると増加している児童がいる。活動を振り返ることで一人ひとりに適切な課題を設定して体力の維持や向上・健康管理につなげたい。</p> <p>【中学部】 ・来年度も生徒の体力向上を中学部の重要教育課題の一つとして取り組んでいきたい。また、今後は高等部と同様に、天気の良い日は校舎周りの屋外で朝のベーシックタイムを実施することを検討していきたい。</p> <p>【高等部】 ・日常生活全般で「つけたい力」を意識しながら今後も取り組みたい。授業では、職業(作業班)について、より生徒の実態にあった活動内容を検討していきたい。</p> <p>【教務・研修部】 ・学習指導要領に留意して、年間指導計画を作成したり、授業を計画したりする意識はあっても実際授業を進めていくときには難しい現状があるように感じた。授業の改善と向上ができるように今後も研修や情報共有などを進めていきたい。</p> <p>【総務部】 ・PTAを中心とした進路支援活動を継続したい。学習会に多くの保護者が参加できるように、オンライン配信を検討する。</p> <p>【進路・教育支援部】 ・保護者への情報提供については、PTA のアンケートを参考に、今後もより多くの保護者が興味を持ってもらえるような内容を検討していく。 ・教職員に対しては、福祉サービスなど地域の支援についても周知できるような研修会を検討していく。</p>
--

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>専門性の向上の取組</p>	<p>【教務・研修部】 学習指導要領を意識した授業実践の推進を図る</p> <p>○活動指標 ・自立活動の取り組みを充実させる。 ・指導案作成などを行い、授業を充実させる。 ・年度末にアンケートを行い、専門性について向上することができたか確認する。</p> <p>○成果指標 ・年度末アンケートの結果、専門性の向上が図れたとする回答の割合 80%以上</p>	<p>【教務・研修部】 ・学習指導要領や指導内容確認表等を参考にして、指導計画を立て授業に取り組んでいくように研修を行った。 ・これまで「年間指導計画について」、「指導案について」、「自立活動について」「振り返り」をテーマに4回の全体研修を行った。</p> <p>・年度末に教員アンケートを実施し、専門性の向上について「かなりできた」、「まあまあできた」という回答が27人中16人(59%)であった。</p>	◎
<p>地域ネットワークの拡大と充実</p>	<p>【進路・教育支援】 地域の幼稚園、保育園、小中学校や高等学校への巡回教育相談や夏季公開研修会等の実施を通し、小中学校や高等学校の教員の特別支援教育の理解と資質向上を図る</p> <p>○活動指標 ・年度初めに地域の幼、保、小中学校、高等学校の障がいのある児童生徒や、特別支援学級の状況の把握。 ・きめ細やかな巡回教育相談の実施。 ・支援法、教材教具、進路相談等の情報提供。</p> <p>○成果指標 ・学年末に相談内容について振り返り、地域の課題を探り、来年度の研修のテーマを決める。</p>	<p>【進路・教育支援】 ・相談のあった幼稚園、保育園、小学校には教育相談がしっかりできたが、相談の無かった学校においては、課題が残ったと受け止めている。 ・夏季公開研修やエリア研修(通級)については一定の成果が得られ、特別支援教育の理解につながったと思われるが、参加校と不参加校との間で、温度差が生まれてきているのではないと思われる。 ・エリア研修については内容的によかったという評価である。 ・さらに充実していったほしい等、いろんな要望が出ていた。(発達検査の結果の読み取りや活用など) ・市町の小中学校、高等学校訪問時には、できる限り、その学校の特別支援教育に関わる情報や、状況を</p>	※

<p>児童生徒の安全・安心かつ充実した学習環境の整備</p>	<p>【生活支援部】 安全・安心に係わる児童生徒の満足度調査の実施と課題の検討</p> <p>○活動指標 ・児童生徒への学校独自アンケートを実施。</p> <p>○成果指標 ・アンケートを2回実施し、生活に関すること、安全に関すること、授業に関することについて、満足とする回答の割合が100%。 ・次年度に向けた課題の整理ができたか。</p> <p>【学校全体】 自然災害等を想定した訓練や関係機関との連携を図</p>	<p>聞き取っているが、本年度は地域の学校からの依頼は減少傾向であり、学校個々の状況理解は困難であった。</p> <p>・紀北町、尾鷲市それぞれの就学支援の場では障がいのある児童生徒の状況を確認することができた。</p> <p>・小中学校から、教育相談や教材貸出の依頼を受け、本校の資源を提供できた。</p> <p>【生活支援】 年度末に満足度調査を実施した。 結果は以下の通りである。 ①安全に関すること:100% ②授業に関すること:95.2% ③学校生活に関すること:90.8% 安全ではない(楽しくない)と答えた主な理由 ・授業中に喋りだす人がいる。 ・自分が学校の日に休むと喜ぶ人がいる。 ・ママと家にいたい。 自由意見欄記入 ・授業が楽しかった。</p> <p>9月末の結果と比較し、全ての項目で数値が上がっている。学校生活に慣れたことが要因と考えられる。 ・現在の指導を継続していくとともに、満足ではないと答えた生徒については、必要に応じて個別に聞き取りを行う。その中から見えてきた課題を他の教職員と共有し、学校全体で課題解決へ向けて取り組みを進めていく。 ・中学部 防災センターにおける校外学習(1回)</p>	<p>※</p> <p>◎</p>
--------------------------------	---	---	-------------------

<p>情報提供による信頼の構築</p>	<p>り、学校防災に努める</p> <p>○活動指標 ・年間を通じて訓練等の防災教育を実施し、地域の防災担当者と打ち合わせを実施する。</p> <p>○成果指標 ・訓練の実施回数、年3回以上 ・打合せの実施回数、年2回以上</p> <p>地域の学校との交流を進め、様々な学習機会の充実を図る</p> <p>○活動指標 ・居住地校との交流や副次的な籍への取り組みを進め、学校間交流を進める。</p> <p>○成果指標 ・希望する児童生徒の交流実施率100% ・交流実施回数1人3回以上</p> <p>ホームページによる情報提供や報道機関への資料提供を通じて、本校の教育活動を情報発信していく。</p> <p>○活動指標 ・本校ホームページの全面リニューアルを行う。</p> <p>○成果指標 ・ホームページの更新月1回以上 ・報道機関への資料提供年5回以上</p>	<p>・南海トラフ臨時情報における連携(1回) ・防災訓練(3回) ・打合せ(1回)</p> <p>・本校(熊野)との交流や副次籍を活用した交流の実施。</p> <p>・希望者3名 100% ※ ・1校1名 3回 ・1校2名 2回</p> <p>・ブログ接続を終え、リニューアルは完了。 ※ ・更新は部分更新含(7回) ・報道機関への提供(5回)</p>
<p>職場環境の整備</p>	<p>教職員が、健康で意欲的に教育活動に取り組むとともに、コンプライアンスを意識して業務を遂行する職場環境を醸成する。</p> <p>○活動指標 ・原則として、毎月第2、第4金曜日を定時退校日とする。 ・会議は40分(16:10~16:50)以内の終了を目指す。 ・連絡事項はオンラインを活用する。 ・日曜日は出勤しない。</p> <p>○成果指標 ・定時退校日に定時退校できた職員の割合80%以上 ・時間内に終了した会議の割合80%以上</p> <p>・1人当たりの月平均時間外労働時間12時間以内 ・月45時間を超える時間外労働者数0人 ・年360時間を超える時間外労働者数0人 ・1人当たりの年間休暇取得日数16日以上 ・オフサイトミーティングを年1回以上実施する。 ・コンプライアンスミーティングを年3回実施する。 ・年度末の職員アンケートで満足度80%以上</p>	<p>・定時退校 定時退校日 22日 75.8% ※ ・多数による放課後の会議 終了32/44回 72.7% ・9.3時間(1月末) ・9人(1月末) ・1人(1月末) ・18.1日 ・1回(本校交流会) ・3回実施 ・88.1%(10月実施)</p>

## 改善課題

### 【教務・研修部】

・学習指導要領を意識した授業作りを目指し、研修を実施してきた。教職員の事後アンケートから、グループワーク等を取り入れるなど、みんなで考えて取り組める研修も有用でないかといった意見もあり、研修方法を検討していくとよい。

### 【進路・支援部】

・相談のあったところは良いが、相談がなくて課題のあるところとにかく働きかけていくか、いかに掘り起こしていくかが課題である。ただ地域の小学校、中学校、高等学校については、地域の発達支援センターの相談員が相談に回っている学校もあるので、一概に本校に依頼がないからと言って理解が進んでいないとは言い難い面がある。

・地域のニーズを把握し、夏季研修会やエリア研修などをより充実したものにできるかが、課題である。

### 【生活支援部】

・引き続き、現在の指導を継続していくとともに、普段の生活で気になることがあれば、積極的に声をかけ、生徒が自ら相談しやすい雰囲気を作っていく。

## 5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○(地域支援について)支援学級に限らず、普通学級に在籍する支援を要する子への指導の在り方など特別支援教育の専門的な助言が必要な状況はありと推察される。地域の小中学校は、くろしお学園に相談することを躊躇しているのかもしれない。定期的な情報交換会を行うなどして気楽に相談できる関係性を築いていただけるとよい。</li> <li>○(副次籍の交流について)本人・保護者の感想を相手校に共有し、ニーズや要望を踏まえて両校でよりよい内容を検討していけるとよい。</li> <li>○(情報発信について)写真を載せたくない人への配慮は必要だが、ホームページは活動の様子がわかる写真が多いほうが見やすい。</li> <li>○(高等部卒業後の支援について)一般就労した卒業生にはパラスポ等、障がい者のイベント情報が届きにくいのではないか。何かできるとよい。</li> </ul>
-----------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○居住地校交流や副次籍の活用など、段階的に取組が進んできた。本人や保護者のニーズを把握し、活動をひろげ、内容の充実を図る。</li> <li>○学習指導要領に基づいた学習が計画的・継続的に展開できるよう、指導計画を見直し、要点と課題を整理して指導計画の改善をすすめる。</li> <li>○防災教育や消費者教育の学習機会を設定し、内容についての児童生徒の理解を深めるとともに、社会性を高める。</li> </ul>
学校運営について の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会議や定時退校日の設定の在り方の見直しや業務の精選を行うことにより、過重労働の縮減を図り、働き方改革を進める。</li> <li>○児童生徒の教育活動の継続や避難所運営などについて、発災時を想定した実行性のある取組を検討する。</li> <li>○児童生徒や保護者が様々な悩みを相談しやすくするため、相談窓口等の案内を発信するとともに、気軽に相談できる雰囲気をつくることで早期発見に繋げ、組織的な対応を行う。</li> </ul>